**カタカナプロジェクト最終課題（1年次演習）**

東京女子大学　松尾慎

　以下の課題を出します。①か②かいずれかの課題を選択してください。

来週の授業（5月18日）に5部コピーした上で、持参してください。遅刻厳禁です。

1. カタカナプロジェクトを踏まえた上で、1000字前後のショートストーリーを執筆すること。
2. カタカナプロジェクトを踏まえた上で、4コマ漫画を2つ作ること。2つの作品はまったく別の作品であってもいいし、キャラクターその他、関係があるものであってもいい。

ショートストーリーは手書きでもワープロうちでも構いません。4コマ漫画は白黒でもカラーでも構いません。しかし、印刷は自分自身でしてください。用紙は原則的にA4としますが、B4やA3になっても構いません。用紙は原則的に自分で準備してください。どうしても必要な場合は、言語科学専攻オフィスでもらってください。ただし、オフィスに入室する時、必ず名前を名乗り、用件を述べてください。

また、以下、注意してください。

・氏名を書くこと

・作品のタイトルを書くこと

　この課題は、カタカナの使用に関し、批判的な観点をもって取り組んでください。「批判的」というのは誰かのことを悪く言ったり、非難したりするという意味ではありません。今回のカタカナプロジェクトでいえば、確かに、外来語をカタカナで書くという例をたくさん収集することができました。しかし、同時に、外国人日本語学習者が話す日本語を「ダイジョウブ」、「ゴメンナサイ」と記す例もありました。また、「危険」を「キケン」とあえて書く場合もあります。「ニホンジン」とか「ヒロシマ」、「フクシマ」という例もあります。わたしがチェックした少女漫画には「自分でも思うケド、ちょっと泣きムシ」というような表現もありました。こうした例を総合的に判断して、「あなたはどう思うのですか、どう考えるのですか」という問いに真摯に向き合うことが批判的思考であると思います。こうしたことを頭において課題に取り組んでください。もちろん、作品の中で「わたしはカタカナ使用に関してこう思う」などということは書く必要はありません。何か意図のある作品にしてくださいという意味です。

　授業では互いの作品を読み合います。また、その上で、作品の意図など説明し合います。もちろん質疑応答もします。こうした作業をしっかりと行うことによって、このプロジェクトにおける学びは、2倍にも3倍にも深まると思いますが、皆さんはどう思いますか。

　では、裏面にショートストーリーの見本を挙げておきます。あくまでも見本ですので、皆さんの創意工夫で好きなように自由に作品を創ってみてください。

（ショートストーリーの見本：カタカナのことばが登場しますが、それは偶然です。今回の課題の見本というわけではなく、あくまでもショートストーリーの見本です）

**ゼウスとエンジェル**（938文字）

作者：水谷　砂岩　<http://ncode.syosetu.com/n5782bo/>　（ネットで公開されています）

天界での話。

「なあ、エンジェル。最近の人間界うるさくない？」

「そうですね。大神ゼウス。」

「ほら、あの。アフリカだっけか？そこらへんの国がドンパチしちゃってんじゃん。うるさいのなんのって。しかも俺らが創った地球の周りになんか飛ばしてんじゃん、あれ何？」

「人工衛星ですね。私たちも人間界のパトロールの時に邪魔で煩わしいと思ってました。」

「やっぱり、ニンゲンに知恵って与えちゃダメだね。つか、生物に知恵って与えちゃダメだね。」

「我々が善意で与えた知恵のせいで我々の生活に悪影響を及ぼしてますね。」

「そこで、私は考えた。」

「いつも私にへーこらしている人が、なに、いっちょ前に『私』とか言ってるのですか。」

「ニンゲンたちを不死身にすればいいのだと。」

「へー。無視ですか、無視しますか。天使舐めんな。って感じですね。ボイコットならお手の物ですよ。しかも、ニンゲンを不死身にするとか、あんたバカですか？」

「すみません。」（何故、天使と神の立場が逆になってしまったんだろう・・・・・・。)

「それは、働かないからです。」

「・・・・・・。」

「さぁ、何故ニンゲンを不死身にするか説明してください。」

「はい・・・・・・。まず、何故ドンパチをするかは、ここ天界でもある通りに話し合いじゃあ解決しないからです。しかし、ドンパチでも解決しなければ、また話し合いで解決するのではないかと。」

「なるほど、一理ありますね。分かりました。勝手に不死身にでもしておいてください。」

「ヤッター。」

そして地球。不死身になった人々は早くも秩序というモノを壊した。なぜなら不死になった身体では死に対する恐怖がなくなったからだ。世界中の人々が私欲のために動き始め、住みやすい土地、安定した美味なる食事、質の高い娯楽などを追い求め、更に争いは熾烈した。しかし今まで通りに殺し合っても誰も死なない。その為に個々の兵器の質を高めて不死をも殺せる兵器を開発した。そして、地球の甘い汁を吸い尽くした人間は別の星に移住し、なぜ不死身になったのか考えた。そこで初めて天界という存在を理解し、天界へ行ける方法を見つけ出した。人間は不死をも殺す兵器を使い神々を殲滅し、天界で皆が幸せに暮らしたとさ。

ゼウスとエンジェル？そんな奴ら僕は知らないね。